やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」（青森）発行

誌　　名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	20 / 2006 / 3-8
タイトル	やぶなべ会「水環境文化賞」を受賞
著　者　名	坂本瀧夫・編集部

やぶなべ会「水環境文化賞」を受賞

初代 坂本瀧夫・編集部

さる平成 18 年 3 月 16 日、東北学院大学土樋キャンバス押川記念ホールにて、当「やぶなべ会」が社団法人日本水環境学会より日頃の活動が評価され「水環境文化賞」を授与されました。これは当会にとって非常に名誉なことで会員の皆様とともに喜びを分かち合いたいと思います。

受賞対象活動の内容をご覧になれば分かるとおり、常日頃の活動の成果が評価されました。また、平成 8 年に始まった「水環文化賞」の歴代受賞者(後記)をみても分かるように、東北地方では仙台の「水の文化史研究会」(平成 12 年)に続いて 2 回目です。今後もこの受賞を励みに、皆様と共に活動を続けていくことを楽しみにしたいと思います。

受賞対象活動 (受賞通知より抜粋)

受 賞 者　「やぶなべ会」

受賞対象活動

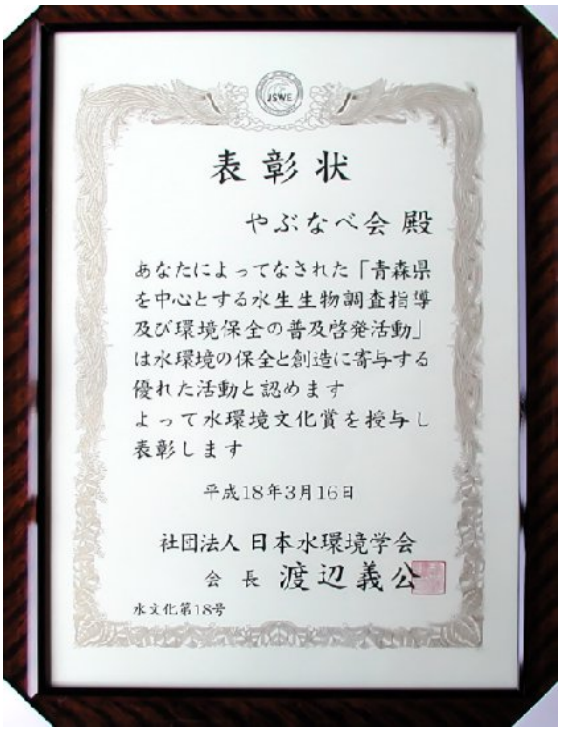
① 40 年間にわたる生物、水質調査等の実施、特に環境省(旧環境庁)主催の水生生物調査「せせらぎウォッチング」に開始当初から参画し、小中高校生、各種団体の指導により、地域の水環境の保全と創造、指導者の育成に貢献。

②展示会、雑誌、会報などを通じた、子供たちや住民への自然環境保全の普及啓発活動。

③各地のホタルの里造りなどへの助言、参画による地域おこし、町おこしへの貢献。

表 彰 式　1) 日 時　平成 18 年 3 月 16 日(水)、16:30～17:30

2) 場 所　「東北学院大学土樋キャンパス」、8 号館 5 階「押川記念ホール」



表彰状

やぶなべ会 殿

あなたによってなされた「青森県を中心とする水生生物調査指導及び環境保全の普及啓発活動」は水環境の保全と創造に寄与する優れた活動と認めます
よって水環境文化賞を授与し表彰します

平成18年3月16日

社団法人 日本水環境学会
会 長 渡辺義公

水文化第18号

水環境文化賞 (表彰状とメダル)

財団法人水環境学会と水環境文化賞について

前身とその理念

発足は 1971 年 10 月に設立された日本水質汚濁研究協会にさかのぼり、1991 年 6 月に現在の学会組織になりました。同学会は水域の清浄化など水環境に関連する分野の学術的調査・研究及び知識の普及を図り、健全な水環境の保全および創造に寄与し、学術文化の発展に貢献することを目的とした環境省認可の公益法人です。また、国際水協会(略称 IWA)国内委員会の中核として活動しており、研究情報の交換、国際交流・協力への参加、環境教育を通じた社会への情報発信などを課題として、幅広く活動しています。

主な活動内容

1)機関誌の発行。2)ホームページによる情報発信。3)年会等の開催。4)研究委員会活動。5)セミナー・市民セミナーの開催。6)支部活動。7)国際交流・協力の推進。8)研究の受託。9)情報の提供。10)見学会・水環境のサロンの開催。

賞の種類と対象者

会員を対象としている「学会賞」「学術賞」「論文賞」「論文奨励賞」「技術賞」のほかに「水環境文化賞」は水環境の保全・創造に関する社会・文化活動が顕著である団体または個人に贈呈する。「水環境文化賞児童・生徒の部(みじん子賞)」は地域の水環境保全・創出に貢献した小・中・高校生のグループに贈呈する(ただし、年会開催地の支部エリアから選考する)。

水環境文化賞受賞者一覧

◇平成 8 年度(97/03/札幌)「北海道漁業団体公害対策本部 代表・本部長遠峰 進一」◇平成 9 年度(98/03 千葉)「財団法人印旛沼環境基金代表・理事長 渡貫 博孝」◇平成 10 年度(99/03 仙台、2 件)「伊豆沼・内沼マコモ植栽グループ『マコモ軍団』代表・佐々木吉治」「川とみず文化研究会 代表・宇都宮 暁子」◇平成 11 年度(00/03 京都、2 件)「近木っ子(こぎっこ)探検隊 代表・松崎 徹」「大殿ホタルを守る会 代表・兼重 保」◇平成 12 年度(0l/03 岐阜、2 件)「長良天神川を考える会 事務局・世話人清水 裕」「仙台・水の文化史研究会　代表・会長 佐藤昭典」◇平成 13 年度(02/03 岡山、2 件)「いわき地域環境科学会 会長 松崎 和敬」「岡山県公立真備陵南高等学校科学部科学部顧問 津島宣夫」◇平成 14 年度(03/03 熊本)「江津湖研究会 会長 椛田 聖孝」◇平成 15 年度(04/03 札幌)「稗田 一俊(個人授賞)」◇平成 16 年度(05/03/千葉、2 件)「NPO 法人 宍塚の自然と歴史の会理事長・及川 ひろみ」「湖東部水生生物研究会 代表・鈴木 利雄」

平成 17 年度「水環境文化賞」の表彰式に参加して　(坂本　瀧夫)

平成 18 年 3 月 16 日(木)16:30 から東北学院大学土樋キャンパス 8 号館 5F『押川記念ホール』で行うので出席いただきたいという通知があった。

蝦名元会長から活動紹介のための写真やパネルなどの展示のための資料づくりをどうしたらいいかということを合わせて連絡があったのが、3 月の初めのころだった。個人的には、いろいろと事情があったが、蝦名氏が拙宅まで足を運んでくるに及んでは、同行することにやむなしという風向きになってしまった。

3 月 5 日(日)

蝦名氏宅を訪れ、パネルの資料をあれこれ選択したり、コピーをしたりして、まあまあ揃えてみたが、何か足らないような気がして胸にストンと落ちるものがなかったが、一応いいだろうということにした…。今までいろいろと面倒を見てくれた、三上さん(県環境保健センター)と相談してみるということにして、前段の仕事を終わりにした。若い頃と異なり、頑張りがきかないとつくづく思う…やっぱり年かなあ…。

3 月 15 日(水)

明 3 月 16 日(木)0:30 青森駅表口でという連絡があった。その時、五十嵐氏が東京で会議があり、仙台に 15 時 46 分私たちより 22 分遅れてつくから、それ以後合流して行動するということを聞いた。

3 月 16 日(木)

青森駅で蝦名氏と落ち合う。しばらく電車に乗っていなかったので、自動改札に戸惑う。電車のチケットが 6 枚もあるので、どれとどれにするからトントお上りさんの呈…。青森駅も嘗てのようなざわめきもなく、なんとなく通りすがりのような寂しさが漂っているような気がする。そうだよなあ…俺の家の前だって新幹線の工事で様変わりしてしまっているもの…。

〈12:49〉 “つがる 18 号”は定時に発車し県南に近づくにつれて、雪の量が少なくなっていく、やっぱり春は間違いなくひたひたと足音を忍ばせながらも北国に訪れているのだ。

〈14:04〉 八戸駅定時発車、“はやて 18 号”は、やはり土竜新幹線だ。やたらとトンネルが多い…。以前にも、蝦名氏とは同じような水環境の表彰で、長崎まで行ったことがある。あれはたしか“ハウステンボス”だった。あの時は、飛行機での往復だったのだが、復路でガルーダ航空の飛行機が爆発事故を起こして、急きょ福岡駅から青森駅まで新幹線と特急を乗り継いで帰ったのである。とんだ“弥次喜多道中”だったわけだったが、今回はどうなることやら…。

〈15:24〉 仙台駅定時到着。中央改札口で五十嵐氏を待つことにする。5 分…10 分…、時計の針は何のためらいもなく時を刻んでいく…。苦労したわけではないが、どうやらこうやらまとめた“パネル展示”だけは見たいなあと思ったが、受付時間の 16:00 まで間に合うのかなあ、と、やきもきしていたとき、少し離れた階段から、五十嵐氏の顔が見えた…、15:50!

仙台駅から車で“押川キャンパス”に急ぐ…。駅からキャンパスまでは、どの位あるのか、見当もつかないが間に合うのかどうか、運転手は、東北学院大学で何か催し事でもあるのか、2～3 日前から人がかなり押しかけていますねっと何の気もなく世間話のように話しかけてくる。こちらはこちらで間に合うかどうかで気もそぞろ…

[写真1] 授賞式会場の東北学院大学

〈15:59〉 東北学院大学到着!“押川キャンパス”までは、正門から学院の建物を縫うように歩いてようやく本部受付に着き、控え室に落ち着いた。間に合ったらしい…。お茶を一服という間もなく、蝦名氏と五十嵐氏は、取材にとばかり飛び出していった。何のこともなく、荷物の番ということ、程なく三上さんが来た。肝心の蝦名氏がいないので挨拶だけで、ちくねんと待っている。ようやく蝦名氏が来て、三上さんと話を始めたが、展示は 16:00 から撤去しているとのこと、見ることはでき

なかった。

表彰式を始めるというので、ホールの方に案内されたが、五十嵐氏は見えない。彼の荷物を持って、会場の裏手にエレベーターで駆けつける。まだ、年次総会をやっているようだ。五十嵐氏は、なかなか来ない。ようやく総会が終わったらしい。五十嵐氏がようやく見えた。一番前の席に案内されて、大きなピンクのリボンをつけろという、俺が壇上に立つわけでもないというのに…。

[写真2]「水環境文化賞」を受賞

表彰式には、長々と前置きがある。それを一番前で聞くのはつらいことだがここまでくるとどうにもならない我慢がまんと言い聞かせる。水環境文化賞は「やぶなべ会」と「関西西宮市の商店街グループ」の 2 団体、みじん子賞も「本県つがる市稲垣中学校」、論文奨励賞には、全国各大学の学生 10 名に、論文賞には 2 名の韓国と中国らしい留学生が、授賞した。それぞれが、授賞の感想を披露した。蝦名氏も 2～3 分という事務局の内示にも拘わらず 5 分近くも話したが、セレモニーだったからみんなよく聞いてくれたと思う…。

[写真3] 蝦名氏の受賞挨拶

ようやく式が終了して、ホッとする間もなく、懇親会場に移動してくれということである。リボンを返そうとすると懇親会場でも付けてくれというのだ。懇親会場は、“仙台国際ホテル”18:00 からということ、ことが動き出すと回転が急に速くなる。正門前に車が待っているというのだ。三上さんと、4 人で懇親会場に向かう。三上さんはもう 1 日頑張らなきゃと車の中でぼやいていた。

懇親会場の“仙台国際ホテル”に着くとかなりの人々が、それぞれに小さなグループをつくって話を交わしていた。一年ぶりの話に花を咲かせているのだろう。それぞれが積もる話があるからだろう、こういう会合には必ずある不思議なグループである。

開会に間があるというので控え室に通された。室には、かなりの年配でそれなりに押し出しのききそうな御仁が一人いただけだった。何か場違いのようだが、それでいて話の接ぎ穂がほしいような御仁である。運営担当の理事の方が紹介してくれた。名刺を交換して驚いた。会場の東北学院大学学長“星宮望”氏である。「今回の大会は、水環境文化賞もみじん子賞も青森県にさらわれてしまって…」ということがきっかけになって、会のことや今までの経緯やエピソードなどが話題になって開会までの間が何とか持たせることができた。この年になるとこういうことがいいことかなあと思ったり、やはりどうってことがないのかなあと思ってみたりしてしまう…。

いよいよ懇親会が始まった。挨拶は短い方がいいとヤジが起こるが、全国からの会員で 1500 人以上の立食パーティでそう簡単には済まない、星宮学長のコメントが終わって、乾杯!三上さんや事務局の幹事さんたちが、いろいろ気を使ってくれるのは、感謝・感激だがしばらくこんな集会に出席していないのでなんとも場もちができないのがもどかしい。飲物はそう進まないのに、肴はあっという間になくなってしまった。1000 人からのパーティだから仕方がないのかも…。

そのうちに、“仙台市民合唱団”か、いい年のオバちゃんたちが舞台に揃って、『津軽のふるさと』

[写真4] 東北学院大学学長の挨拶

[写真5] 懇親会会場にて(坂本・蝦名両氏)

[写真6] 懇親会余興(仙台扇子踊り)

『長崎の鐘』など、数曲披露した。多少場違いの感はあったが、会場は拍手で応えていた…。もうアトラクションは終わりかなあと思っていたら、半纏に扇子,提灯の一団が舞台を占め,鉦や太鼓のお囃子が始まった。なんという踊りなのか、題の紹介があったのだろうが、会場の賑わいや話し声で聞きとれなかった。何でも藩政時代からのもので由緒あるものらしい、中には留学生らしい瞳の青い女の子も混じっていたのがうれしい…、何とも賑やかな囃子である。しかもかなり長い踊りだった…。2時間の立食バーティは、かなりつらい…、途中座をはずして、一服つけるに廊下に出た。今まで我慢していた空が、雨になってしまったようだ…。

20:00に5分ほど前、ようやくパーティが終わりになった。フロントから、コートや荷物を受け取り、駅に向かうことにする。21:44の電車まで駅で待つことにする。今回はハプニングはなさそうである。まあ、それが当たり前ということだろうか…。あと1時間30分、どういう風に時間を稼ぐのか、パーティでは食ったか飲んだか、なんとなく腹が空っぽのようなので、駅の中の“そば屋”に腰を落ち着かせた。それぞれに“蕎麦酎のお湯割り”と“そば”を注文して間を持たせることにした。もう式の話しは出なかった。メダカで世話になった“野中渉”氏の送別会の話になった。野中氏はメダカ共和国では、随分と世話になったし、仕事も積極的でマメだったし、役人風を吹かせることもなかったのがうれしい…。折角ここまでやってくれたのに、次の人がどうなのか少し心配である。とりとめのない話で間を持たせ、ホームに出た。あと10分ほど…

〈21:44〉 “はやて33号”仙台駅定時発車。電車は、雨の中を北上する。この分では青森も雨かも知れない。しばらくぶりに革靴を履いたりするからこうなるのか、春だといっても北国は冬の装いをなかなか脱いではくれないことをよく知っているくせに…。「三上さんを慰労したほうがいいのかな…?」蝦名氏が声をかける。「やってくれた方がいいかも…」答える。忙しい人だから、日程をやりくりしてみたらということにしておく…。

〈23:00〉 八戸駅着定時だ。

〈23:07〉 “つがる33号”八戸駅定時発車。雨は、小やみなく降っている。三沢・野辺地と停車。何人かずつ下車する人がいるようだ。ウイークディだから、閑散としたものだ。車内は、一人一席でふんぞりかえっている。

今回の表彰式を振り返ってみると、受賞対象活動は…、

①約40年にわたる生物・水質調査の実施、特に環境省(旧環境庁)主催の水生生物調査「せせら

ぎウオッチング」に開始当初から参画し、小中高校生、各種団体の指導により、地域の水環境の保全と創造、指導者の育成に貢献②展示会、雑誌、会報などを通じた、子どもたちや住民への自然環境保全の普及啓発活動③各地のホタルの里づくりなどへの助言、参画による地域おこし、町おこしへの貢献

　である。このどれにも参画し、活動はしてきたが、だからといって表彰式に出てリボンをつけるほどのことはないと思うのは、俺だけだろうか…。雁首を揃えるだけでもいいのか。それも大切なことなのか…。なんだか、ひどく疲れたような気がする。

〈0:07〉　青森駅定時着。あわただしい一日ではあったが、終わってみればいい一日であったような気がする。蝦名氏が私の体調を気づかって、17 日の午前中から電話をしてくれたりして申し訳ないと思っている。